

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2018年第46週
(11月12日～11月18日)

- * 2018年11月21日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「海外旅行で気をつけるべき感染症
ジアルジア症」も掲載しています。

平成30(2018)年11月22日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2018年46週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		43週	44週	45週	46週	年累計	46週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	69	58	90	49	2,925	357	19,212
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
	鳥インフルエンザ(H7N9)							
三類	コレラ							4
	細菌性赤痢	26	6			74		221
	腸管出血性大腸菌感染症	7	11	5	3	440	34	3,684
	腸チフス					11		34
	パラチフス				1	8	1	21
四類	E型肝炎		4	5	2	91	7	399
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	7	7	5	7	402	12	873
	エキノコックス症							11
	黄熱							
	オウム病					2		6
	オムスク出血熱							
	回帰熱							6
	キャサヌル森林病							
	Q熱					2		3
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							2
	サル痘							
	ジカウイルス感染症							
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*3}							74
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							1
	炭疽							
	チクングニア熱							3
つつが虫病		1	1		6	33	189	
デング熱	1	1	3		57	2	177	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。

*3 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		43週	44週	45週	46週	年累計	46週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						3	288
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							3
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症					1		2
	マラリア					13		47
	野兔病							
	ライム病					1		13
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽					1		2
	レジオネラ症	3	2	2	1	149	18	1,938
レプトスピラ症					5		30	
ロッキー山紅斑熱								
2018/11/21集計								

(全数把握対象疾患のコメント・一類～五類)

〈二類感染症〉

結核 49件 患者および死亡後診断 33件(肺結核 26件、その他の結核 6件、肺結核及びその他の結核 1件)、無症状病原体保有者 15件、疑似症 1件、年齢は10歳未満 4件(うち5歳未満 3件)、10代 2件、20代 9件、30代 3件、40代 6件、50代 5件、60代 2件、70代 12件、80代 5件、90歳以上 1件、推定感染地は国内 31件、ミャンマー 1件、不明 17件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 3件 患者 1件、無症状病原体保有者 2件、血清型・毒素型はO157 VT1・VT2 2件、O157 VT2 1件、年齢は20代 2件、50代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は経口感染 2件、不明 1件であった。
パラチフス 1件 患者、年齢は20代、推定感染地はバングラデシュ、推定感染経路は経口感染であった。

〈四類感染症〉

E型肝炎 2件 患者、年齢は50代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は経口感染 2件であった。
A型肝炎 7件 患者 7件、年齢は20代 3件、30代 2件、40代 1件、50代 1件、推定感染地は国内 6件、韓国 1件、推定感染経路は同性間性的接触 2件、経口感染 5件、A型肝炎ワクチン接種歴は無し 4件、不明 3件であった。
レジオネラ症 1件 病型は肺炎型、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 1件 病型は腸管、年齢は50代、推定感染地および推定感染経路は不明であった。
ウイルス性肝炎 1件 B型、年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染経路は異性間性的接触、B型肝炎ワクチン接種歴は不明であった。
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 4件 病原菌はエンテロバクター・アエロゲネス 1件、エンテロバクター・クロアカ 1件、肺炎桿菌 1件、その他 1件、年齢は60代 1件、70代 2件、80代 1件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は以前の保菌 2件、手術部位感染 1件、不明 1件、90日以内の海外渡航歴は無し 4件であった。
急性脳炎 3件 病原体はノロウイルス 1件、病原体不明 2件、年齢は5歳未満 2件、10代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 1件、不明 2件であった。
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 血清群はA群、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路は創傷感染であった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2018年46週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		43週	44週	45週	46週	年累計	46週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	3	2		1	139	8	733
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	1	2		1	56	2	220
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8	2	4	4	198	43	1,958
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く) *1	1	1			7	4	111
	急性脳炎 *2	3		1	3	56	9	576
	クリプトスポリジウム症					3		24
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	1		24	3	188
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	2	1	80	9	610
	後天性免疫不全症候群	7	7	15	11	362	15	1,136
	ジアルジア症	1			2	19	1	66
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	1			35	3	418
	侵襲性髄膜炎菌感染症					6		31
	侵襲性肺炎球菌感染症	10	6	2	14	332	46	2,806
	水痘(入院例に限る)	1	1	1	2	53	9	388
	先天性風しん症候群							
	梅毒	41	36	34	40	1,556	87	6,096
	播種性クリプトコックス症			1		17	2	157
	破傷風					7	2	115
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					5	1	70
百日咳 *3	90	124	89	77	1,909	290	9,543	
風しん	80	53	59	45	763	123	2,186	
麻しん	2			1	18	4	255	
薬剤耐性アシネトバクター感染症					4		20	

2018/11/21集計

*1 2018年5月1日より追加指定された。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

*3 2018年1月1日より追加指定された。

後天性免疫不全症候群 11件 AIDS 3件、無症候キャリア 7件、その他 1件、性別は男性 11件、AIDS患者の年齢は30代 1件、40代 2件、無症候キャリア及びその他の年齢は20代 4件、30代 1件、40代 1件、50代 2件、推定感染地は国内 9件、不明 2件、推定感染経路は性的接触 7件(同性間 6件、両性間 1件)、不明 4件であった。

ジアルジア症 2件 年齢は20代 1件、40代 1件、推定感染地はインド 1件、カンボジア 1件、推定感染経路は水系感染 1件、経口感染又は水系感染 1件であった。

侵襲性肺炎球菌感染症 14件 血清型はすべて検査未実施、年齢は10代 1件、20代 1件、40代 1件、50代 3件、60代 3件、70代 1件、80代 4件、推定感染地は国内 13件、不明 1件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 8件、不明 6件、肺炎球菌ワクチン接種歴は価数不明1回接種済み 2件、無し 9件、不明 3件であった。

水痘(入院例) 2件 臨床診断例 2件、年齢は20代 2件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は不明 2件、水痘ワクチン接種歴は2回接種済み 1件、不明 1件であった。

梅毒 40件 患者 30件(早期顕症梅毒 I 期 17件、早期顕症梅毒 II 期 12件、晩期顕症梅毒 1件)、無症候梅毒 10件、性別は男性 28件、女性 12件、年齢は20代 12件、30代 11件、40代 9件、50代 4件、60代 3件、80代 1件、推定感染地は国内 37件、国外(渡航先不明) 1件、不明 2件、推定感染経路は性的接触 39件(同性間 7件、異性間 25件、性別不明 7件)、不明 1件であった。

百日咳 77件 年齢は10歳未満 35件(うち5歳未満 8件)、10代 17件、20代 1件、30代 5件、40代 12件、50代 4件、60代 2件、70代 1件、推定感染地は国内 63件、不明 14件、百日咳含有ワクチン接種歴は4回接種済み 37件、3回接種済み 4件、1回接種済み 1件、無し 4件、不明 31件であった。

風しん 45件 検査診断例 41件、臨床診断例 4件、年齢は5歳未満 1件、20代 6件、30代 19件、40代 13件、50代 6件、推定感染地は国内 34件、不明 11件、推定感染経路は飛沫感染 9件、接触感染 1件、不明 35件、風しん含有ワクチン接種歴は1回接種済み 1件、無し 11件、不明 33件であった。

麻しん 1件 検査診断例、遺伝子型不明、年齢は5歳未満、推定感染地および推定感染経路は不明、麻しん含有ワクチン接種歴は無しであった。

※ 第40週で報告のあった〔五類〕麻しん 1件は削除された。

※ 第42週該当分として〔五類〕カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1件の追加報告があった。

※ 第45週該当分として〔五類〕百日咳 4件、風しん 2件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2018年46週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2018年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		43週	44週	45週	46週		
小児科	RSウイルス感染症	172	108	107	85	262	264
		0.66	0.41	0.41	0.32		
	咽頭結膜熱	48	53	60	99		
		0.18	0.20	0.23	0.38		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	602	593	700	713		
		2.30	2.27	2.66	2.72		
	感染性胃腸炎	1,338	1,339	1,791	2,058		
		5.11	5.13	6.81	7.85		
	水痘	57	89	121	89		
		0.22	0.34	0.46	0.34		
	手足口病	372	342	301	374		
		1.42	1.31	1.14	1.43		
	伝染性紅斑	337	284	404	387		
		1.29	1.09	1.54	1.48		
突発性発しん	129	109	137	140			
	0.49	0.42	0.52	0.53			
ヘルパンギーナ	81	56	31	36			
	0.31	0.21	0.12	0.14			
流行性耳下腺炎	20	13	22	20			
	0.08	0.05	0.08	0.08			
川崎病 ^{*1}	4	2	3	6			
	0.02	0.01	0.01	0.02			
不明発しん症 ^{*1}	38	33	30	17			
	0.15	0.13	0.11	0.06			
インフル エンザ	インフルエンザ ^{*2}	67	83	186	251	415	419
		0.16	0.20	0.45	0.60		
眼科	急性出血性結膜炎	2	1			37	39
		0.05	0.03				
	流行性角結膜炎	23	22	21	12		
	0.61	0.58	0.55	0.32			
基幹	細菌性髄膜炎 ^{*3}		3	1		25	25
			0.12	0.04			
	無菌性髄膜炎	1	1	3			
		0.04	0.04	0.12			
	マイコプラズマ肺炎	16	12	12	13		
		0.64	0.48	0.48	0.52		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)				1		
				0.04			
感染性胃腸炎(ロタウイルス) ^{*4}				1			
				0.04			
インフルエンザ入院	1		1	1			
	0.04		0.04	0.04			

2018/11/21集計

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

* 百日咳は2018年1月1日より五類(定点把握対象)から五類(全数把握対象)に変更

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ 伝染性紅斑は報告数の高い地域が増加しており、警報レベルに達しています。
- ・ 感染性胃腸炎、手足口病、水痘は一部、定点報告数の高い地域が見られます。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2018年46週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病
～5か月	15	1	1	18		2		2			
6～11か月	16	4	1	99	3	19	6	41	2		
1歳	37	19	8	284	7	114	9	61	9		2
2歳	6	10	17	275	3	91	30	24	6	1	2
3歳	5	14	69	194	6	48	44	7	3	3	1
4歳	3	19	88	234	8	27	64	3	6	2	1
5歳		13	94	192	9	23	68	2	6	2	
6歳	1	5	111	158	12	14	54		2	6	
7歳		1	87	101	12	9	42		1	2	
8歳	2	7	78	97	12	7	31				
9歳		2	45	71	6	3	15			2	
10～14歳		3	71	137	11	9	18		1	2	
15～19歳			4	30			1				
20～29歳		1	39	168		8	5				
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	85	99	713	2,058	89	374	387	140	36	20	6
先週比	-22	39	13	267	-32	73	-17	3	5	-2	3

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科	インフルエンザ	眼科			基幹				
	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出 血性結 膜炎	流行性角 結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月		1								
6～11か月		5							1	
1歳	6	13		2			1			
2歳	2	8								
3歳	3	7					1			
4歳	1	21					1			
5歳	2	20								
6歳	1	18								
7歳		19								
8歳	1	26		1			2			
9歳		13					1			
10～14歳		39		1			2			
15～19歳		3					1			
20～29歳	1	6		2			1			1
30～39歳		22		2						
40～49歳		18		3			1			
50～59歳		6					1			
60～69歳		3								
70～79歳		2		1						
80歳以上		1					1	1		
合計	17	251		12			13	1	1	1
先週比	-13	65		-9	-1	-3	1	1	1	

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数【保健所別】 2018年46週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病
千代田			1.67	0.33		0.67					
中央区		0.33	1.33	14.67	1.00	2.67	5.00	2.33	0.33		
みなと	0.50	0.17	2.00	7.33	0.33	1.67	1.17	0.83	0.17		
新宿区	1.25	0.25	2.13	6.25	0.13	0.50	0.50	0.25	0.13		0.25
文京			1.50	13.75	0.75	2.00	1.50	0.25		0.50	
台東		0.25	5.50	16.50	0.25	2.00	2.50	1.25			
墨田区	1.20	0.20	0.20	4.60		1.80	0.80	1.00			
江東区	0.33	1.11	2.56	13.22	0.44	0.78	2.44	1.11	0.11		
品川区	0.14	0.43	1.57	6.71	0.29	0.57	2.43	0.43		0.29	
目黒区		0.20	3.20	11.20	0.20	1.20	1.60	0.80	0.40		
大田区	0.38	0.77	3.23	11.46	0.46	0.85	0.62	0.23	0.31		0.08
世田谷	0.25	0.25	2.88	7.19	0.44	1.06	1.50	0.38	0.13		
渋谷区			0.50	3.25		0.75	0.75				
中野区	0.33	1.33	3.00	11.00		4.00	0.33	1.17		0.17	
杉並	0.09		1.55	5.18	0.09	0.64	0.73	0.36	0.09	0.09	0.09
池袋	0.50	0.50	1.00	2.50			0.75		0.75		
北区	0.57	0.14	2.71	7.00	0.14	1.57	1.29	0.57			
荒川区	0.25	2.75	4.25	9.75	1.00	3.50	0.50	1.50			
板橋区		0.10	0.60	4.40	0.10	1.50	1.60	0.40		0.10	
練馬区	0.31	0.23	4.15	9.62	0.23	1.77	1.08	0.54	0.08		0.08
足立	0.38	0.38	1.92	10.00	0.54	1.54	0.46	0.38			
葛飾区	0.13	0.38	1.63	7.63	0.38	2.25	1.13	0.38	0.38		
江戸川	0.33	0.67	4.50	10.50	0.42	1.08	1.25	0.17	0.08	0.25	
八王子市	0.82	0.27	4.00	10.00	0.36	1.18	4.09	0.27	0.27	0.36	
町田市	0.13	0.13	3.13	12.00	1.13	1.38	2.25	1.00	0.25	0.13	
西多摩	0.13	0.38	1.00	2.25	0.13	0.50	1.75	0.38			
南多摩	0.33		2.22	3.11	0.44	0.89	1.44	0.78	0.11		
多摩立川	0.07		3.14	4.14	0.29	2.07	0.79	0.21	0.07	0.14	
多摩府中	0.29	0.38	3.33	7.48	0.14	1.29	1.76	0.81	0.33	0.10	0.05
多摩小平	0.53	0.53	4.47	6.80	0.60	2.67	2.47	0.40	0.07	0.07	
島しょ			1.00								
東京都	0.32	0.38	2.72	7.85	0.34	1.43	1.48	0.53	0.14	0.08	0.02

	小児科	インフルエンザ	眼科		基幹					
	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田										
中央区		0.80		2.00						
みなと		1.22					4.00	1.00		
新宿区		0.75					1.50			
文京		0.14								
台東		0.29								
墨田区		0.13								
江東区		0.36								
品川区		0.09								
目黒区	0.40	0.38		1.00						
大田区		1.62		2.50						
世田谷	0.31	1.16								
渋谷区	0.25	0.29		1.00			1.00			
中野区		2.20								
杉並	0.09	0.06		1.00						
池袋	0.25	1.43					1.00			
北区		1.09								
荒川区		0.29								
板橋区		0.13								
練馬区	0.08	0.52								
足立		0.05		0.50						
葛飾区		0.62					2.00			
江戸川		0.21								
八王子市		0.17								
町田市	0.13	0.08								
西多摩		0.29								1.00
南多摩		0.14								
多摩立川	0.07	0.57								
多摩府中	0.10	1.06		0.50			0.67			
多摩小平	0.13	0.57							0.50	
島しょ		4.00								

東京都	0.06	0.60		0.32			0.52	0.04	0.04	0.04
-----	------	------	--	------	--	--	------	------	------	------

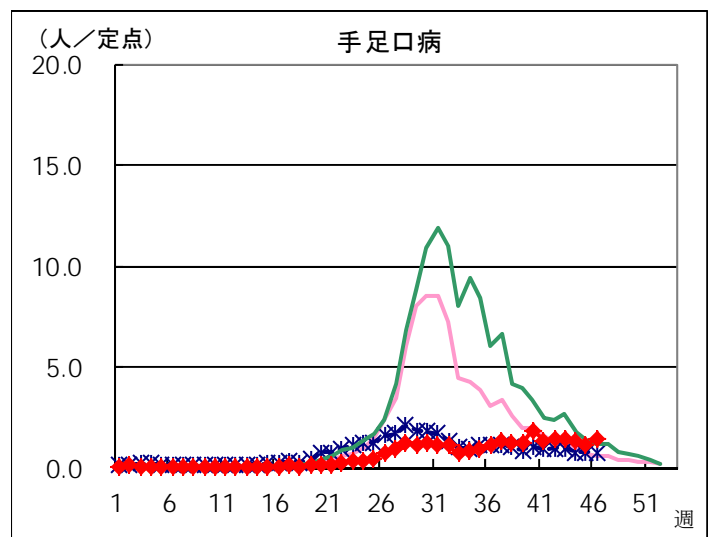
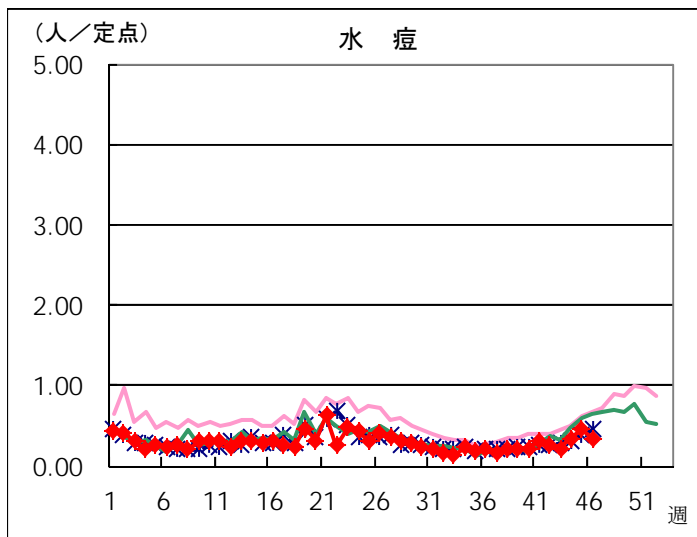
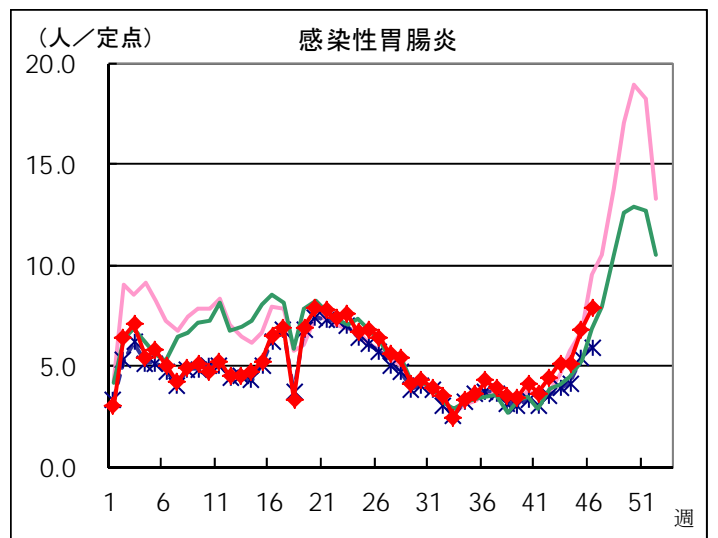
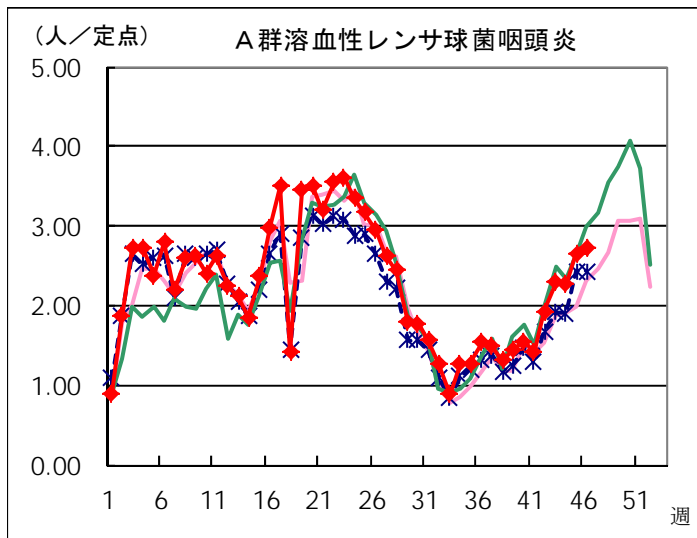
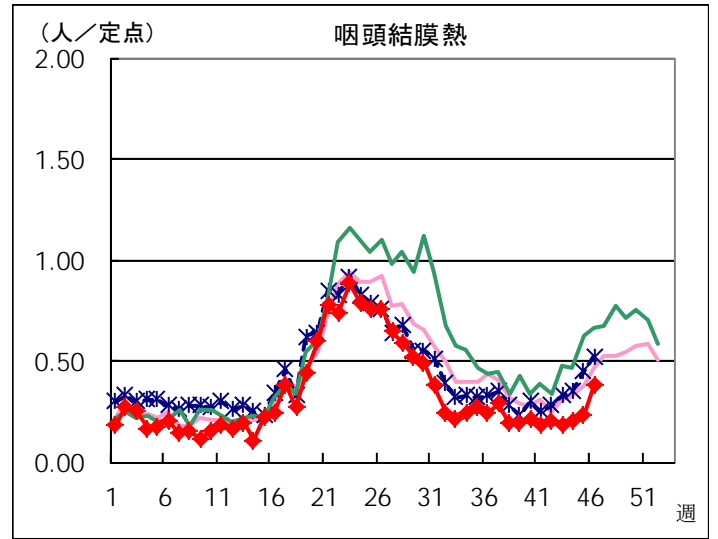
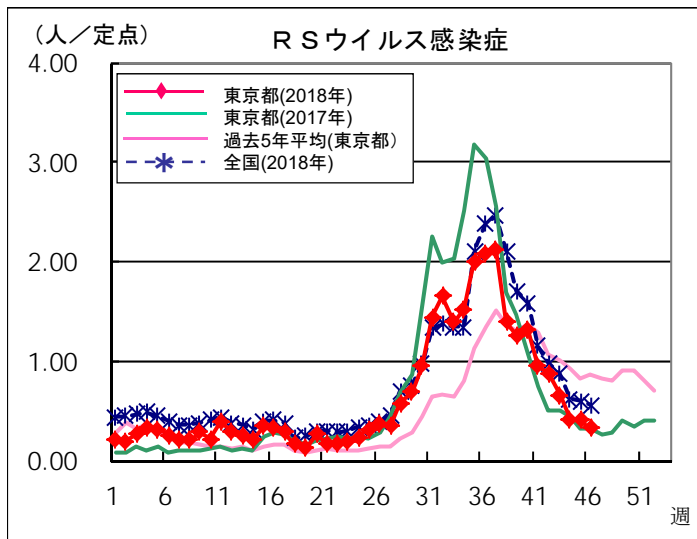
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2018年46週

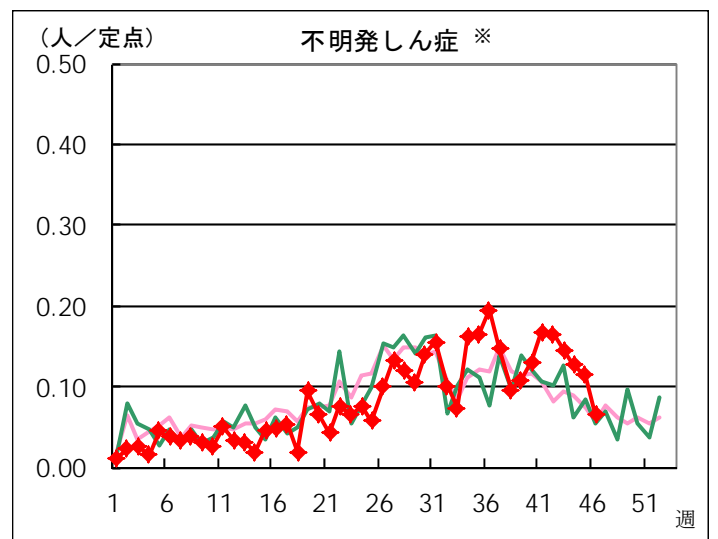
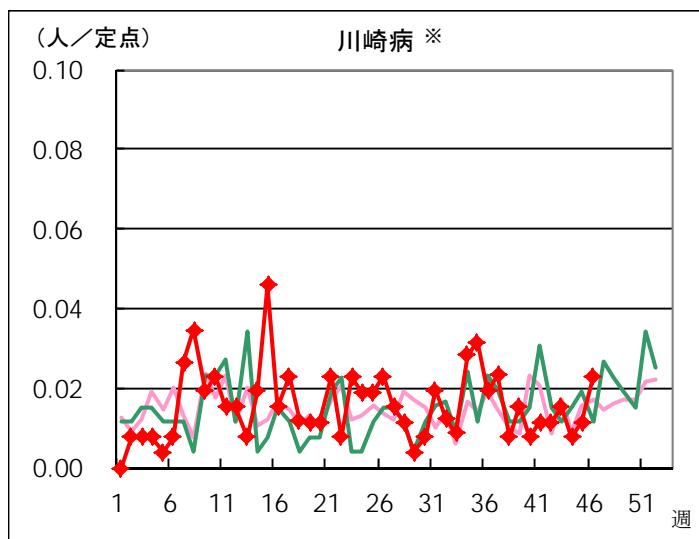
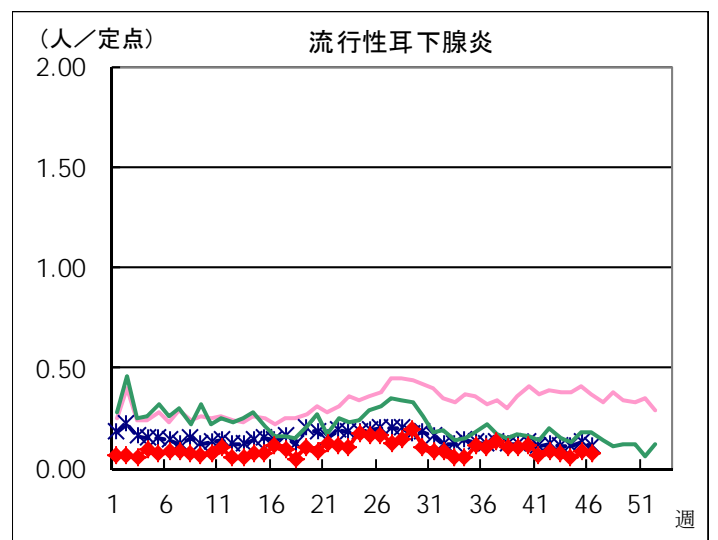
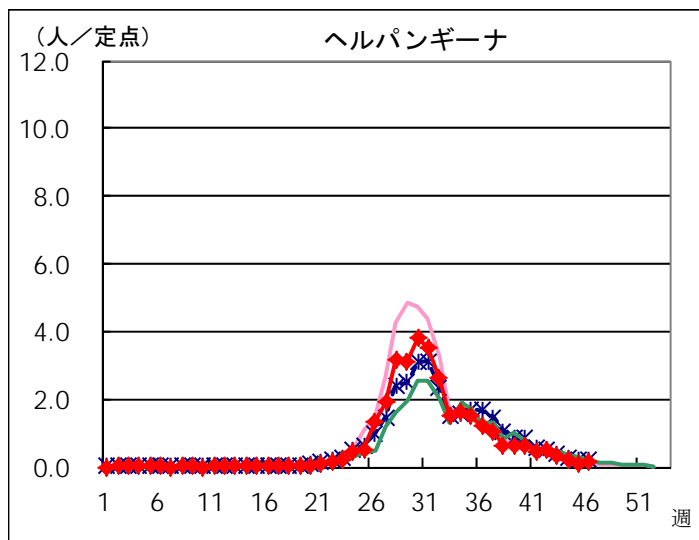
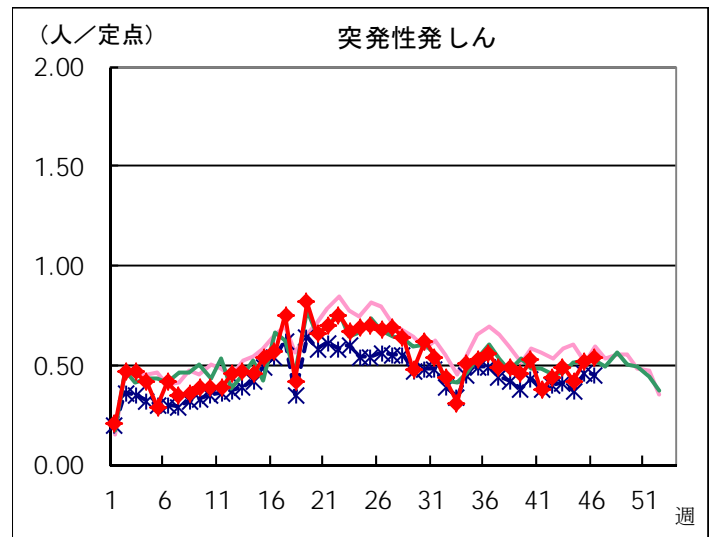
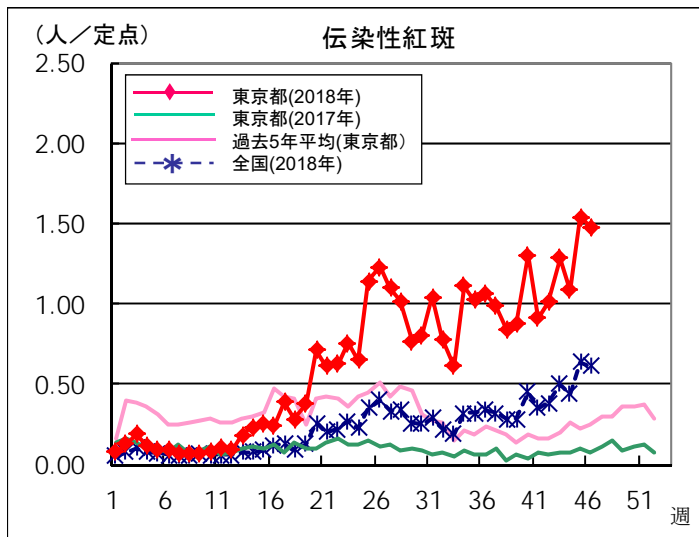
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病
千代田			5	1		2					
中央区		1	4	44	3	8	15	7	1		
みなと	3	1	12	44	2	10	7	5	1		
新宿区	10	2	17	50	1	4	4	2	1		2
文京			6	55	3	8	6	1		2	
台東		1	22	66	1	8	10	5			
墨田区	6	1	1	23		9	4	5			
江東区	3	10	23	119	4	7	22	10	1		
品川区	1	3	11	47	2	4	17	3		2	
目黒区		1	16	56	1	6	8	4	2		
大田区	5	10	42	149	6	11	8	3	4		1
世田谷	4	4	46	115	7	17	24	6	2		
渋谷区			2	13		3	3				
中野区	2	8	18	66		24	2	7		1	
杉並	1		17	57	1	7	8	4	1	1	1
池袋	2	2	4	10			3		3		
北区	4	1	19	49	1	11	9	4			
荒川区	1	11	17	39	4	14	2	6			
板橋区		1	6	44	1	15	16	4		1	
練馬区	4	3	54	125	3	23	14	7	1		1
足立	5	5	25	130	7	20	6	5			
葛飾区	1	3	13	61	3	18	9	3	3		
江戸川	4	8	54	126	5	13	15	2	1	3	
八王子市	9	3	44	110	4	13	45	3	3	4	
町田市	1	1	25	96	9	11	18	8	2	1	
西多摩	1	3	8	18	1	4	14	3			
南多摩	3		20	28	4	8	13	7	1		
多摩立川	1		44	58	4	29	11	3	1	2	
多摩府中	6	8	70	157	3	27	37	17	7	2	1
多摩小平	8	8	67	102	9	40	37	6	1	1	
島しょ			1								
東京都合計	85	99	713	2,058	89	374	387	140	36	20	6

	小児科	インフルエンザ	眼科		基幹					
	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
千代田										
中央区		4		2						
みなと		11					4	1		
新宿区		9					3			
文京		1								
台東		2								
墨田区		1								
江東区		5								
品川区		1								
目黒区	2	3		1						
大田区		34		5						
世田谷	5	29								
渋谷区	1	2		1			1			
中野区		22								
杉並	1	1		1						
池袋	1	10					1			
北区		12								
荒川区		2								
板橋区		2								
練馬区	1	11								
足立		1		1						
葛飾区		8					2			
江戸川		4								
八王子市		3								
町田市	1	1								
西多摩		4								1
南多摩		2								
多摩立川	1	12								
多摩府中	2	33		1			2			
多摩小平	2	13							1	
島しょ		8								
東京都合計	17	251		12			13	1	1	1

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2018年46週 現在)

◆ 小児科定点

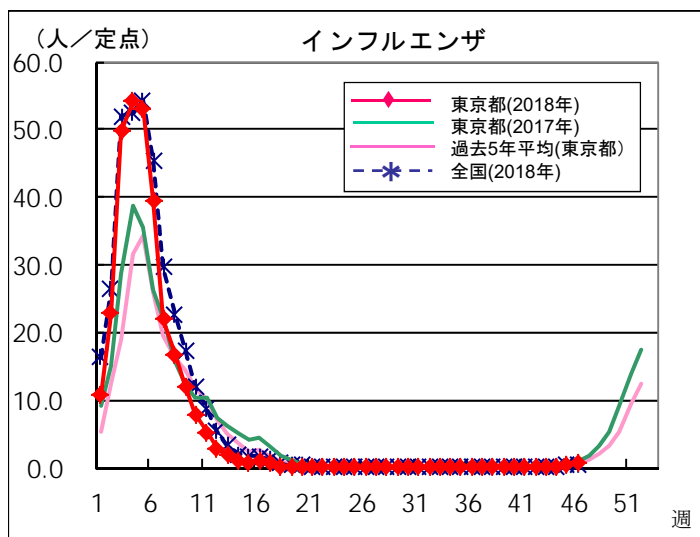




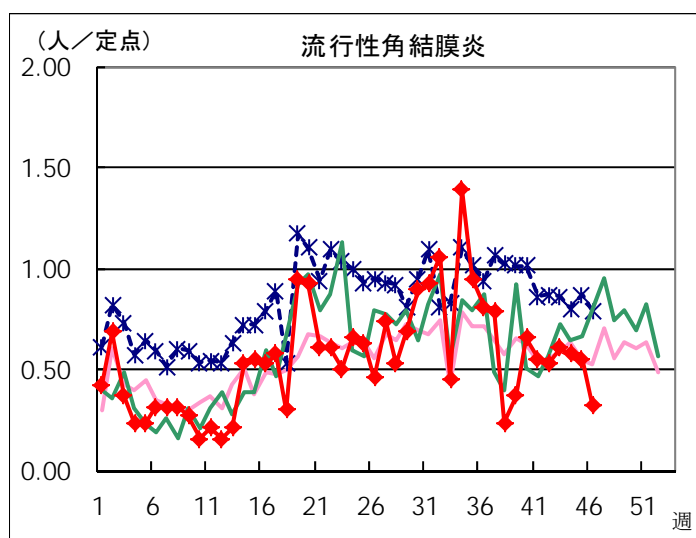
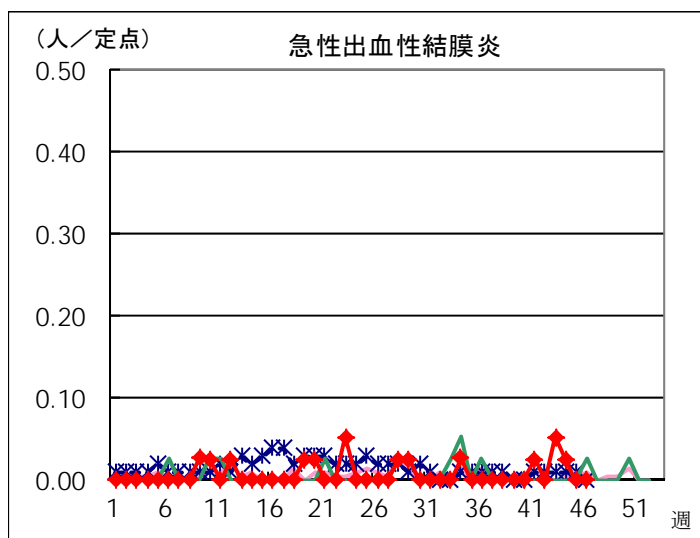
※ 東京都独自対象疾患

※ 東京都独自対象疾患

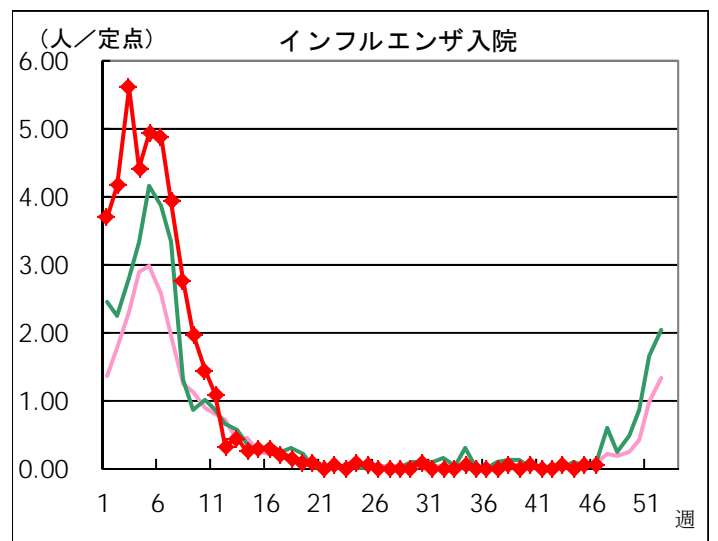
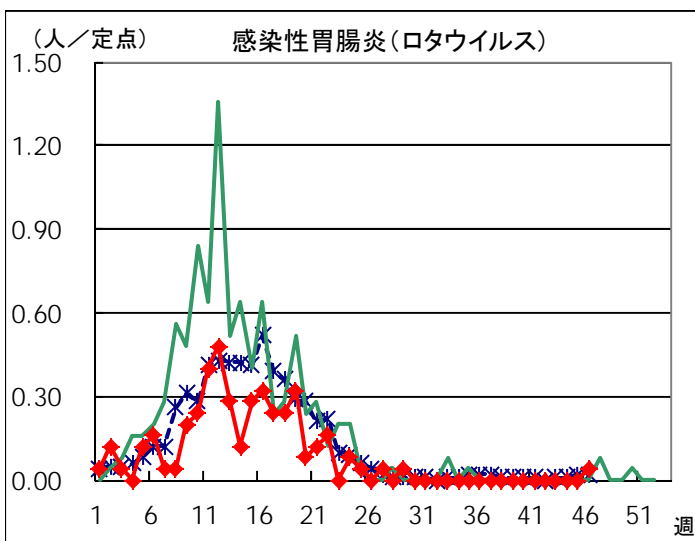
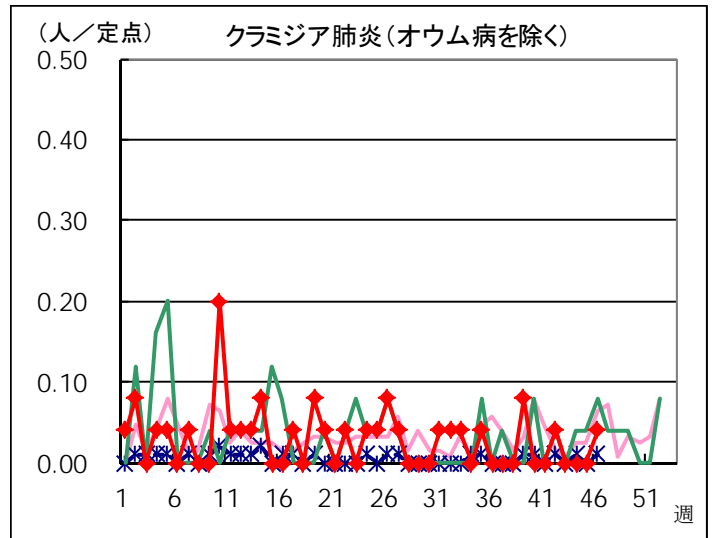
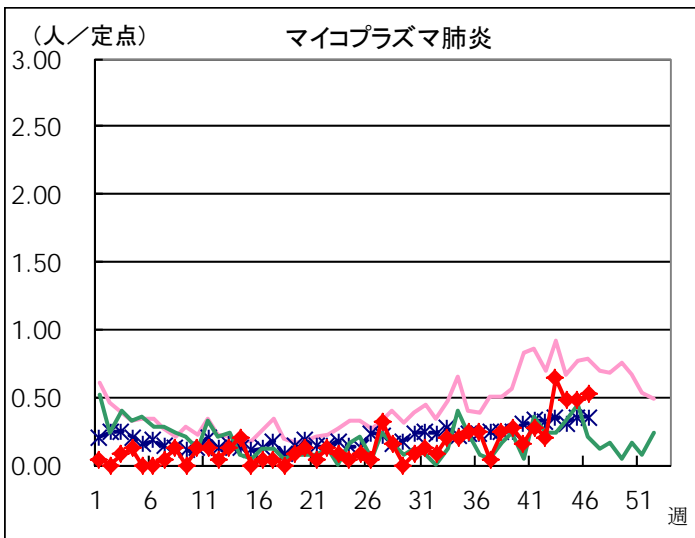
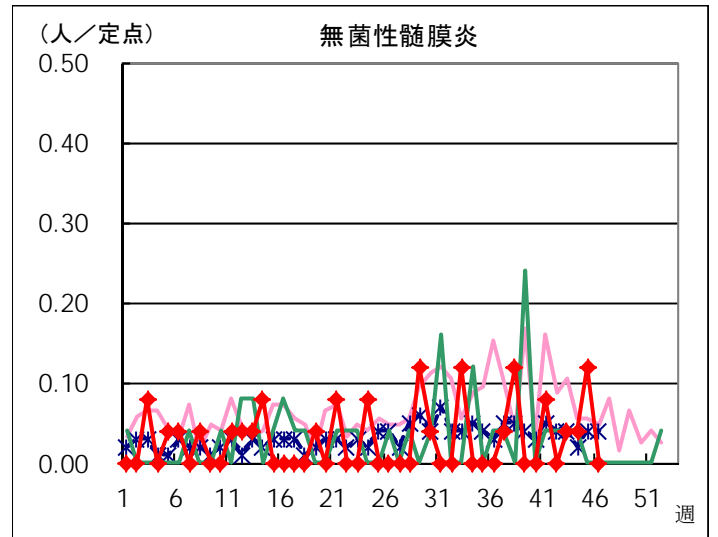
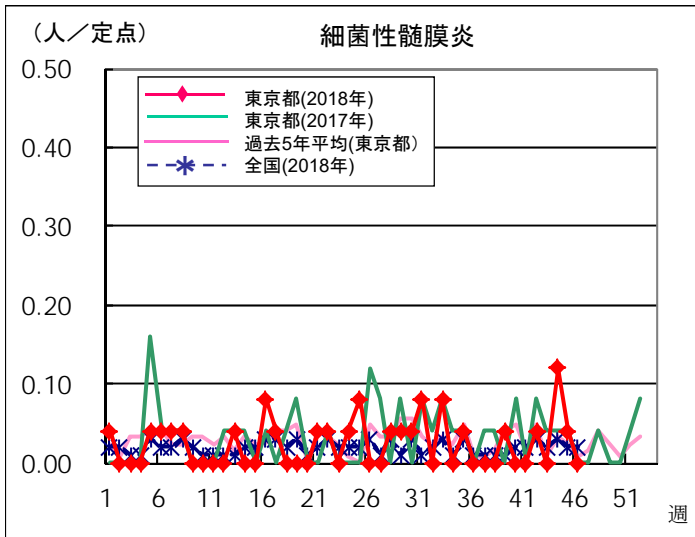
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
10/22	咽頭結膜熱	1	咽頭拭い液	アデノウイルス1型
10/24	手足口病	5	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群16型
10/26	手足口病	10M	咽頭拭い液	エンテロウイルス71型
10/26	無菌性髄膜炎	2M	咽頭拭い液	エンテロウイルスD68型
10/28	咽頭結膜熱	1	咽頭拭い液	アデノウイルス1型
10/29	RSウイルス感染症	1	咽頭拭い液	RSウイルスB型
10/29	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群16型
10/29	手足口病	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス71型
10/30	手足口病	2	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群16型

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

44週はインフルエンザウイルスが検出されませんでした。

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2018年44週				
2018-2019年 シーズン累計*	6		3	

* 2018-2019年シーズンの開始は第36週(2018年9月3日～)

病原体検出情報【週別】

検出病原体	2018年							
	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週
アデノウイルス	1		1	1	2			2
コクサッキーウイルスA群	1	2	5	4	4	2	3	3
コクサッキーウイルスB群					1			
エコーウイルス			1	1	1			
エンテロウイルス71	1			2		2	1	2
その他のエンテロウイルス		1	2		2		1	1
ライノウイルス			1		1	2	1	
ヒトメタニューモウイルス								
単純ヘルペスウイルス								
水痘・帯状疱疹ウイルス				1				
ヒトヘルペスウイルス6型・7型	1	1	1	5		1	1	
EBウイルス								
サイトメガロウイルス								
ムンプスウイルス								
麻疹ウイルス								
麻疹A型(ワクチンタイプ)								
風しんウイルス			1	1		1		
風しん1a型(ワクチンタイプ)								
ヒトパルボウイルスB19	2		1	3	2	1		
RSウイルス	3		1	3	3			1
ノロウイルス								
ロタウイルス								
サポウイルス								
インフルエンザウイルスAH1亜型								
インフルエンザウイルスAH3亜型				1	1		1	
インフルエンザウイルスB型								
インフルエンザウイルスAH1pdm09	2	2					2	
その他のウイルス				1				
A群溶血性レンサ球菌T-1型								
A群溶血性レンサ球菌T-3型								
A群溶血性レンサ球菌T-4型		1						
A群溶血性レンサ球菌T-12型				2		1		
A群溶血性レンサ球菌T-25型								
A群溶血性レンサ球菌T-28型								
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型				1				
A群溶血性レンサ球菌その他のT型								
A群溶血性レンサ球菌T型別不能								
百日咳菌								
肺炎マイコプラズマ				1				
肺炎クラミジア								
髄膜炎菌								
B群レンサ球菌								
肺炎球菌								
インフルエンザ菌								
黄色ブドウ球菌								
大腸菌								
その他の細菌								
その他の病原体								

病原体検出情報 【臨床診断名別】

2018年37週～2018年44週

	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性性紅斑	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発疹	インフルエンザ	インフルエンザ様疾患	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
搬入検体数	12	7	5	4	4	22	7	9	7	5		32	11	13	1	3		8	1	
アデノウイルス		4														3				
コクサッキーウイルスA群						13	1		6			4								
コクサッキーウイルスB群																		1		
エコーウイルス																		3		
エンテロウイルス71						6						1						1		
その他のエンテロウイルス		1				1							1	3				1		
ライノウイルス		1					1						1	2						
ヒトメタニューモウイルス																				
単純ヘルペスウイルス																				
水痘・带状疱疹ウイルス					1															
ヒトヘルペスウイルス6型・7型		1						5				4								
EBウイルス																				
サイトメガロウイルス																				
ムンプスウイルス																				
麻疹ウイルス																				
麻疹A型(ワクチンタイプ)																				
風しんウイルス													3							
風しん1a型(ワクチンタイプ)																				
ヒトパルボウイルスB19				1			5					3								
RSウイルス	11																			
ノロウイルス																				
ロタウイルス																				
サポウイルス																				
インフルエンザウイルスAH1亜型																				
インフルエンザウイルスAH3亜型														3						
インフルエンザウイルスB型																				
インフルエンザウイルスAH1pdm09														6						
その他のウイルス				1																
A群溶血性レンサ球菌T-1型																				
A群溶血性レンサ球菌T-3型																				
A群溶血性レンサ球菌T-4型			1																	
A群溶血性レンサ球菌T-12型			3																	
A群溶血性レンサ球菌T-25型																				
A群溶血性レンサ球菌T-28型																				
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型			1																	
A群溶血性レンサ球菌その他のT型																				
A群溶血性レンサ球菌T型別不能																				
百日咳菌																				
肺炎マイコプラズマ																				1
肺炎クラミジア																				
髄膜炎菌																				
B群レンサ球菌																				
肺炎球菌																				
インフルエンザ菌																				
黄色ブドウ球菌																				
大腸菌																				
その他の細菌																				
その他の病原体																				

<感染症豆知識>

海外旅行で気をつけるべき感染症—ジアルジア症

数週間単位で持続する旅行者下痢症の患者さん。便培養で起炎菌が検出されず、抗菌剤にも反応しない、このような場合は寄生虫が原因となっている可能性がある。最も良く遭遇するのはアメーバ赤痢とジアルジア症だが、本コラムでは後者について概説する。

本症はジアルジア（別名ランブル鞭毛虫）という原虫による感染症である。汚染された水や食料中に存在する嚢子を経口的に摂取すると体内で栄養体となり、十二指腸と上部小腸、および胆道系に吸着寄生する。アメーバ赤痢と異なり組織に浸潤しないため血便や高熱は通常認められないが、下痢や時に吸収障害、胆嚢炎を惹起する。過敏性腸症候群や炎症性腸疾患と類似した症状を呈するため、このような症例を見た場合、本症の有無を確認しておく方が良いかもしれない。

診断は新鮮な便標本中に虫体を検出することによって行う。ヨード染色法を併用することで検出率が高くなる。それでも感度はあまり高くなく、嚢子の排出は間欠的なので本症が疑われる場合には、検査を繰り返す必要がある。他には、ELISA 法や蛍光抗体法によるランブル鞭毛虫抗原の検出、PCR 法も用いられることがある。また、内視鏡で採取した十二指腸液や生検による診断もよく用いられる。

輸入感染症だけでなく、国内での感染も起こる。性感染症や人獣共通感染症として家畜やペットからの感染も重要である。日本での報告患者数は年間約 100 例程度しかないが、実際は多くの感染者がいる。さまざまな目的で大腸内視鏡検査を受けた人の腸管洗浄液を用いた検討では、0.5%にランブル鞭毛虫が確認されている。このような場合でも持続的に嚢子が排出されるため、メトロニダゾールによる治療が推奨されている。

最後にひとつ。ジアルジア症患者は感染症法に基づく届け出が義務づけられている。このため、診断した場合には7日以内に都道府県知事に届け出る必要がある。

（文責 順天堂大学医学部教授 美田敏宏）